

3年 社会科「福光大火とたたかったヒーロー ～火事からくらしをまもれ！～」 (全19時間)

子供の姿

- ・学級活動や学校行事等で学級や中部っ子の一人として自分にできることを見付け、意欲的に取り組もうとする子供が多く見られる。
- ・生活経験から自分の考えをもととする子供が多い一方で、自分を主語にして語る子供が少ない。

単元の目標

- ・消防署や関係機関は、地域の人々の安全を守るために、緊急時に対処する体制を整えていることや、防火に努めていることを理解することができる。
- ・火災から人々の安全を守るための働きについて、消防施設・消防設備等の配置、緊急時への備えや対応などに着目して、消防署や関係機関、地域の人々の働きを考え、表現することができる。
- ・主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に地域の安全を守るために地域社会の一員として自分にできることを考えようとする。

目指す子供像

消防署の人の働きや、地域の人から構成される消防団の人の働き等を考え、火事について多角的に追究する中で、「火事のない社会になってほしい」という願いをもって火災予防につながる取組を考えたり、「僕も火事が起こったら地域の人のくらしを守りたい」という強い思いをもったりする子供の姿を期待する。

【第一次までの追究過程と第二次の追究予測】

題材提示 福光大火を通して火事が起きた際の消防署の人や被災者等の思いや願いを考える (計4時間)

第一次 消防署の人の働き (計7時間)



県内の多くの消防署の人が駆け付けて協力して消火にあたった様子から、消防署の人の協力体制に着目して消防署の人の工夫を調べた。そして、火事が起きたときだけではなく、普段から協力して仕事をしていることを知った。

第二次では、消防署の人だけでもたくさんの方が協力して活動するのにも関わらず消防団の人の方が多いいことは、それぞれの仕事で役割を分担しているのではないだろうかと思ひ、消防署の人と消防団の人の仕事内容の違いを明らかにしようと歩み始めるだろう。

他の消防署の人も駆け付けてきたのね。他の消防署の人と協力して消したチームワークもすごいよ。

スライド「福光大火と消防署」

消防署の人が早く駆け付けてくれたおかげで、これ以上の家に燃え広がらずに済んだのだと思うよ。消防署の早い対応が大切だと思ったよ。

こんなに大きな火事が起きたということは、きっと多くの人が亡くなってしまうのかもしれない。



ゲストティーチャー 福光大火の現場に住んでいた人・当時の消防署の人

こんなに大きな火事が起きても、怖がらずに消火にあたった消防署の人は、普段から火事に備えているのだろうか。

消防署の人でも大きな火を見て焦って、消火中にけがをしてしまったくらい大きな火だったんだね。

いくら消防署の人が多くいたとしても、人数が足りないうくらい大きな火だったのね。

消防署の人は早く駆け付けたけれど、通報が遅れてしまったことが燃え広がることにつながったことが分かったよ。

矛盾

こんなに大きな火事が起きたにも関わらず、死者が全くなかったの！？

2015年 火事でけがをした人の数 3人 火事でなくなった人の数 3人	2017年 火事でけがをした人の数 3人 火事でなくなった人の数 1人	2019年 火事でけがをした人の数 1人 火事でなくなった人の数 1人
2016年 火事でけがをした人の数 3人 火事でなくなった人の数 1人	2018年 火事でけがをした人の数 2人 火事でなくなった人の数 0人	2020年 火事でけがをした人の数 5人 火事でなくなった人の数 1人



問いの提示 「火事からくらしを守るために、消防署の人はどんな工夫をしているのだろうか？」

消防署の人は、どのような協力をしているのだろうか？

消防署見学

火事が起きたときは二台で駆け付け、一台は水の確保、もう一台は消火のために使い、二台で協力して消火するよ。

仲間と訓練したり、交代して勤務したりして、協力して毎日仕事しているよ。

火事が起きたときだけではなく、普段の仕事も協力して行っているんだね。

消防署の人は、火事が起きた時に早く駆け付けるために、どのような工夫をしているのだろうか？

みんながすぐに準備できるよう、通信指令センターから消防署に入ってくる通報は、消防署内の放送で聞こえるよ。

消火服の置き方や着替える訓練、消火器具の点検などして、普段から火事に備えているよ。

火事が起きていないときの仕事も、消防署の人が火事の現場に早く駆け付けるための工夫なんだね。

消防署の人は、火事に備えて普段からどのような仕事をしているのだろうか？

教科書や「わたしたちの南砺市」すぐに消火に当たることができるように訓練をしたり、火事が起きたときに消火器具が使えないことがないよう点検をしたりしているよ。

夜に火事が起きたときも消火できるようにするために、夜に訓練することもあるよ。

どれも、「いつ火事が起きたら」もつながる仕事だね。

火事から私たちの暮らしを守るために、消防署の人は様々な工夫や努力をしているんだね。



福光大火では、消防署の人が早く駆け付けたおかげでこれ以上は燃え広がらずに済んだと考えたため、早く火災現場に駆け付けるための消防署の人の工夫を調べた。そして、いつ火事が起きても出動できるように、常に出動できる準備をしていることを知った。

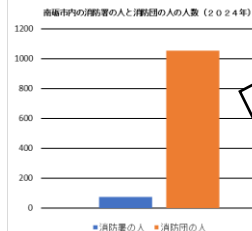
第二次では、消防団の人の普段の生活を知り、消防団の人は別の仕事をしているにもかかわらず、消防署の人のように早く出動することができるのかという問いをもって追究する。



大きな火を見ても勇気をもって消火活動にあたる消防署の人の姿から、消防署の人の備えについて調べた。訓練や器具の点検などの普段の仕事はどれも火事が起きたときに早く消火活動することができるために行っているという共通点考えた。

第二次では、私たちのくらしを火事から守ってくれるという同じ目的で活動する消防団の人、普段から火事に備えて消防署の人と同じような活動をしているのではないかと予想して追究する。

第二次 消防団の働きと課題・南砺市の消防力の持続可能性（計8時間）



矛盾

火事からくらしを守ってくれるのは消防署の人のはずなのに、消防団の人の方が多かったなんて！

問いの提示 「火事からくらしを守るために、消防団の人はどんな工夫をしているのだろうか？」

消防署があるのに、消防団は必要なのかな？消防署の人と消防団の人の違いを整理したいな。

消防団の人は、普段は違う仕事をしているにも関わらず、早く駆け付けて消火できるのかな？

消防署の人と同じように、消防団の人も普段から火事に備えているのではないかな？

消防団の人は、消防署の人と違って全員が地域の人だよ。消防団の人は地域のことをよく知っている人だから、消火栓や用水等、消火に使う水の間所を消防署の人に伝えることができるよ。

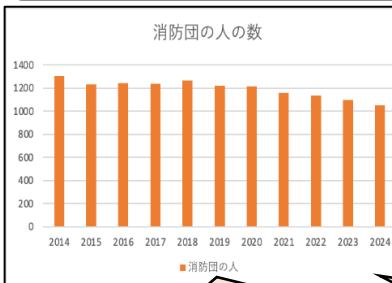
消防団の人は、常にスマートフォンを持っていて、いつでも出動の連絡を受け取ることができるように準備しているよ。出動する準備をしているところは消防署の人と同じだね。

毎年、「消防操法大会」という大会があり、消防団の人どうして技を競うよ。みんな本気で訓練することができるよ、対戦形式にする工夫があるのかな。

消防団の人は、地域の防災訓練で火災に関することを地域の人に教えることも仕事だよ。火事について知らないことや心配なことは近所の消防団の人に聞けばいいね。

消防団の人は、火災が起きたときにすぐに消火することができるよ、地域の消火栓の点検を継続して行っているよ。たくさんの消火栓があるから、すべて点検するのは大変そうだな。

江戸時代に福光大火が起きた日の2月22日に消防団が訓練をしているよ。この訓練は、再び大火が起きることを防ぐために、福光地域の人に過去の大火を知らせる役割があるよ。



このままでは、消防団の人が減ることが予想されて心配だから、僕も消防団に入って地域の人を守りたいな。どうしたら消防団に入ることができるのか調べてみよう。

消防団の人が減っていることは心配だけれど、自分にできることを知ると、心配する必要はなくなると思ったよ。消防団の代わりに、あまり知られていない火災を予防する方法を家族や友達に教えて、火災をなくしていきたいな。

この先も南砺市の人々のくらしを火事から守ることができるか心配だから、自分にできることをして、少しでも力になれたらいいな。二度とないように、地域の人に福光大火を広めたいよ。

南砺市はこれからも火事からくらしを守っていけるのだろうか？

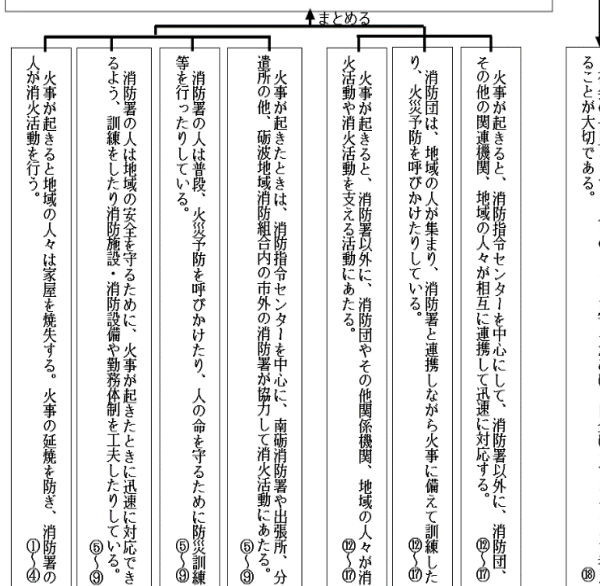
【知識の構想図】

概念的知識

消防署や消防団等の関係機関、地域の人々は火災から地域の人々の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対応する体制をとってたり、防火に努めたりしている。

生かす

具体的知識



学習過程 問いをもつ 調べる

【授業者の手立て】

～視点1 主体的な学びにするための工夫～

● 子供一人一人が思いや願い、問いをもち、学習意欲を高める工夫

実際に校区内で起きた福光大火を事例として用い、当時の様子を時系列で追ったり、実際に経験した町の人や消火に当たった元消防署員の話の聞いたりして、実際に起きた火事を追体験し、火災について学習するきっかけとなる思いや願いを引き出す。また、生活経験で「火災が発生した際に人々の命を守る人は消防署の人である」と考えた子供の知識を覆す資料として、南砺市内の消防署の人の数と消防団の人の数を比較するグラフを提示し、火災時に活躍する人は消防署の人であるはずなのに、消防署の人以外の人数の方が多いという矛盾を契機として、消防団の働きについて調べようとする主体性を引き出す。

～視点2 協働的な学びにするための工夫～

● 顔マークを用いた聴き合い

題材に対する思いや願いを子供どうして受け止め合うことができるよう、福光大火について知る場面で、毎日の朝の会の聴き合いタイムで用いている顔マークを用いる。

● 「学び合いコーナー」と「一人学びコーナー」の設置

一人学びで自分の問いについて調べている中で立ち止まった際に、仲間から学び方について相談し合うことができるよう、「学び合いコーナー」を設ける。また、一人で集中して調べたい子供のために、「一人学びコーナー」をつくり、自分に合った学びの場を選ぶことができるようにする。